

## 8. 推進すべき柱ごとの現状と課題及び施策の方向

### (1) 住民主体の地区ごとの健康づくり活動の促進～推進すべき柱1

#### 現状と課題

○島根県で大切にしてきた地区ごとの健康づくり活動が注目されています。

- 市町村では、公民館や自治会等の地区組織に住民の健康づくり組織を設けており、健康診断の結果等をもとに地区の問題点を共有し、住民が健康づくりの目標と計画を立てて評価しながら活動を行ってきました。  
保健所は、この活動に対して広域的・専門的な立場から支援を行ってきました。
- 地域福祉活動においても、社会福祉協議会が中心となって、住民に身近な自治会区を単位に、支え合いや見守りの仕組みづくりを進めてきました。
- 地域福祉活動や介護予防活動と一体となった活動が島根県の健康づくり活動の特徴で、16市町村で地区ごとの健康づくり活動の組織体制が確保されています。
- その活動内容は、自分自身の健康に関するだけでなく、子どもに健康的な生活習慣を身につけさせる活動や見守り、認知症高齢者の支え合い、自死防止の取組、地域医療を守る取組、環境保全活動など地域の活動に発展しています。
- きめ細かい地域保健活動の展開を図るため、住民主体の地区ごとの健康づくり活動の再活性化が求められています。特に、働きざかりの住民の活動参加が課題となっています。
- 中山間地域の小規模・高齢化した集落では、高齢者の健康に関わりの深い外出手段や、食材の購入等の生活機能の維持が課題となっています。
- 近年、虐待やいじめ、引きこもり、自死、孤独死等の問題をとおして、社会における人と人のつながりや支え合い（ソーシャルキャピタル）の重要性が高まっています。  
また、東日本大震災等の災害時には、日ごろから地域で醸成された「ソーシャルキャピタル」が、住民自治や地域の助け合いの精神に発展しました。
- 認知症は、介護が必要となる主な原因のひとつであり、認知症に対する正しい知識の普及や、地域で認知症患者を支える取組と地区活動との連動が期待されます。

## 施策の方向

## スローガン

『地域力で健康づくり活動を推進しよう！』

- 生涯現役、健康なまちづくりの実現のためには、住民の健康づくりへの参画が不可欠であり、人と人のつながりや支え合いを重視した住民主体の地区ごとの健康づくり活動のさらなる促進を図ります。
  - 県・各二次医療圏の「健康長寿しまね推進会議」のネットワークの強化と活動の促進を図ります。
  - 市町村における健康づくりの取組への支援に努め、地区ごとの生涯を通じた健康づくり活動を推進します。

### (施策の展開方法)

- 市町村や保健医療専門団体、その他の関係機関・団体と連携し、住民主体の地区ごとの健康づくり活動を支援するとともに、地区相互の活動交流や活発な活動を行っている地区的表彰を行い、活動の活性化を図ります。
  - 地区の健康づくり活動の一環として、学校教育・放課後支援など地域全体で子どもを育む活動への関わりを促進し、声かけや各種学習を通して、子どもの適切な生活習慣の確立への働きかけを推進します。
  - 壮年期の住民の地区活動への関わりを促進するため、職場をはじめ、PTAや自治体職員などが積極的に地区活動に参加しているなどの好事例の収集と情報発信に努めます。
  - 地区の健康づくり活動を、認知症高齢者の支え合い、自死防止の取組、地域医療を守る取組、環境保全活動の取組などにつなげていきます。
  - 地域住民の生活機能の維持を目指す中山間地域をはじめとした地域活性化施策は、健康に関わりが深いことから、連携促進を図ります。

## 地区ごとの健康づくり活動促進のイメージ

## 【施策の方向】

- 人と人とのつながりや支え合いを重視した住民主体の地区ごとの健康づくり活動のさらなる推進
  - 県や圏域の健康長寿しまね推進会議のネットワークの強化と活動の促進
  - 市町村の健康づくり協議会の設置や活性化と、地区ごとの生涯を通じた健康づくり活動を推進

